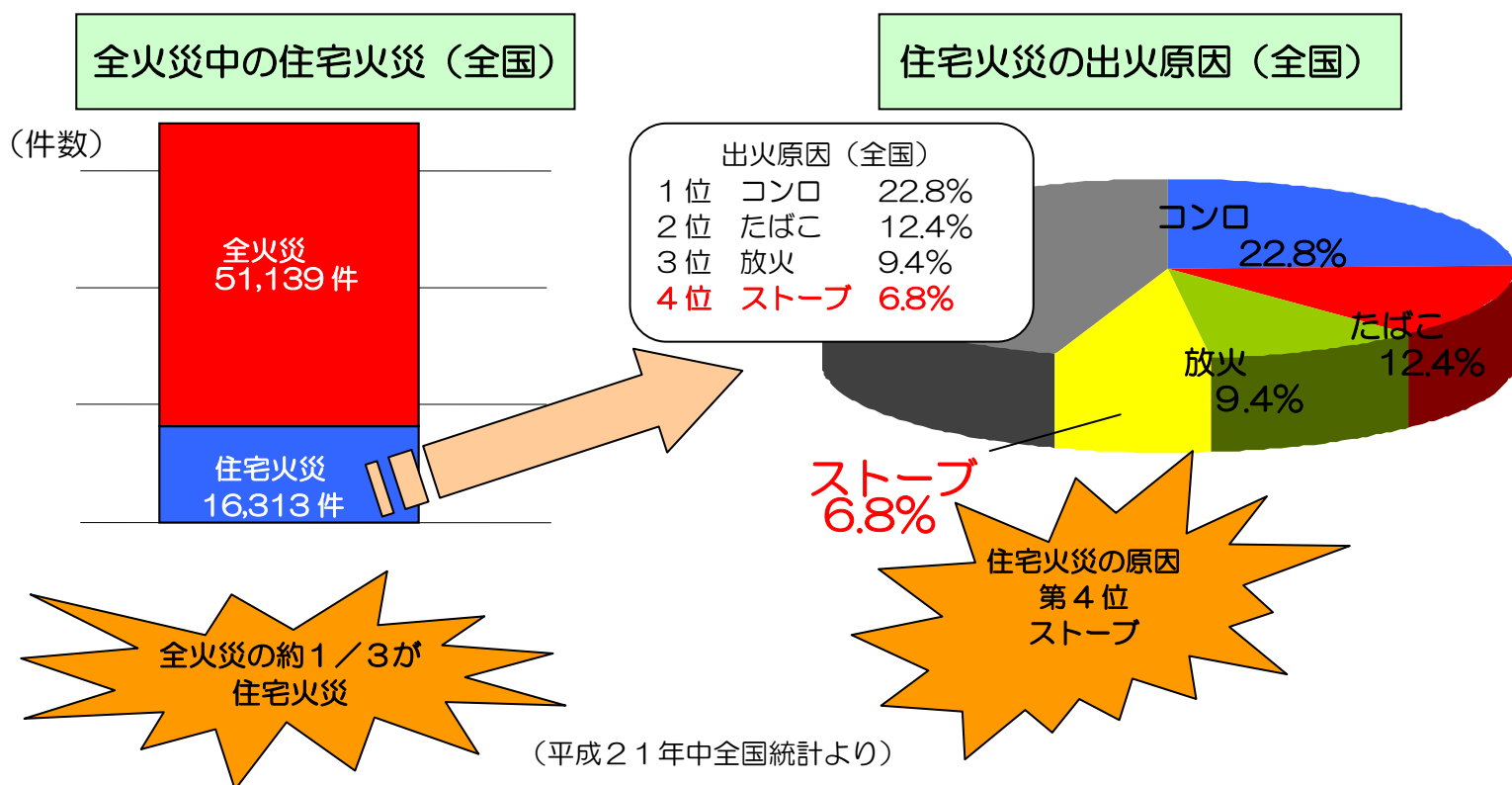
ストーブ火災に注意!!

　平成２１年中に全国で発生した火災 51,139 件のうち，住宅火災は 16,313 件で，そのうちストーブが原因となる火災は 1,114 件で，住宅火災の出火原因の６．８%を占めています。
　また，死者の発生率で見ると，住宅火災の原因第１位である「こんろ火災」では約 56 件に１人の割合に対して，「ストーブ火災」は約 11 件に１人の割合で死者が発生しており，火災件数に対して死者の発生する割合が高い状況にあります。
　「ストーブ火災」の多くは，可燃物の接触，転倒，使用中の給油など，不注意や誤った取扱いによって出火しています。

　ストーブ火災を防ぐためには，まず，火災の実態を知るとともに，取扱説明書などをよく読み，正しい取扱いや管理をすることが大切です。
　ストーブの使用頻度が高いこの時期に，安全な取扱い方法についての知識を深めましょう。

石油ストーブと同じように出火！

○電気ストーブでも，火災は多発！

電気ストーブと石油ストーブの火災発生状況を比べると，福岡市ではほぼ同じくらいの割合で発生しています。

電気ストーブは，取扱いや維持管理が簡単なことなどから，手軽な暖房器具として普及していますが，火災を起こさないためにも，使用に際して次の点を必ず確認しましょう。

1　周囲に可燃物はないか
2　本体やコードの損傷はないか

※リコール中のハロゲンヒーターやカーボンヒーターで事故が多発しています。
お使いのハロゲンヒーターやカーボンヒーターが該当製品でないか確認してください。

○暖房器具からの火災を防ぐポイント

1　可燃物の近くで使用しない　！

・ストーブの上方に洗濯物を干すと，落下した時，火災となるおそれがあります。
・カーテン，布団，ふすまなどの近くでは使用しないようにしましょう。

2　エアゾール缶などをストーブ・ファンヒーターの上やそばに置かない　！

・エアゾール缶などをストーブやファンヒーターなどの暖房器具の上方や近くに放置していると，放射熱で過熱され缶の内圧が上昇して破裂し，漏れたガスに引火するおそれがあるので絶対にやめましょう。

3　寝るときや外出するときには必ず火を消す！

・布団などが接触して火災となるおそれがあるので，寝るときや外出するときは暖房器具を消す習慣をつけましょう。
・電気ストーブ・石油ファンヒーターは，長期間使用しないときには，誤ってスイッチが入らないようにコンセントを抜きましょう。

4　給油時には確認！

・石油ストーブ等のカートリッジタンクの口金は確実に締まったことを確認してからセットしましょう。
・給油時は必ず消火し，火が消えたことを確かめてから給油しましょう。
・カートリッジタンクへの給油は，石油ストーブ等とは別の場所・火気のない場所で行いましょう。
・給油後は，火気のないところで一度カートリッジタンクをひっくり返し，カートリッジタンクから灯油が漏れないことを確認してからセットしましょう。また，漏れてしまった油は，よく拭き取りましょう。

☆一酸化炭素中毒に注意！☆

～定期的な換気を行いましょう～

暖房器具による一酸化炭素中毒の事故に注意してください。

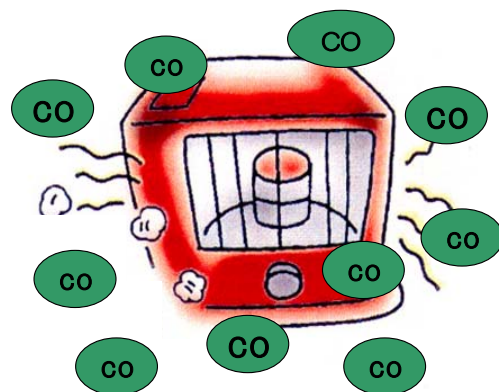
火災にはならないものの，一酸化炭素中毒の事故も多いものです。

０９年に美祢市のホテルで修学旅行に同行中のカメラマンら６人が死傷した一酸化炭素中毒事故は，まだ記憶に，新しいところです。

一酸化炭素は，石油やガス，炭などの不完全燃焼により発生しますが，無色，無臭のため，発生し吸入しても気がつきにくい特性があります。

また，血液中のヘモグロビンと非常に結びつきやすいことから，少ない量を吸入しても血液の酸素運動能力が著しく損なわれ，酸素欠乏状態となり，最悪の場合には死に至ることもあります。

一酸化炭素中毒は，**充分な換気**を行うことで未然に防止することができます。

室内で石油ストーブやガス器具などを使用する際は，定期的に換気するようにしましょう。

「これぐらい　いいだろう・・・」
「つい　うっかり・・・」
を無くしましょう！
「定期的な換気」
を忘れずに行いましょう！

【問い合せ先】

消防局　予防部　予防課
担当　古賀・深堀
ＴＥＬ　092-725-6611